

山形市野草園だより



「杉林の中のヤマユリ」

2022.08.02

『 涼しさの 腹にとほりて 秋ちかし 』

今年の立秋は8月8日（火）ですが、野草園では、7月の末頃から、秋の七草のナデシコやオミナエシ、クズが咲き始めました。

見出しの正岡子規の俳句『 涼しさの 腹にとほりて 秋ちかし 』のように、本園の朝夕は、涼しい風が通って、日々、秋を近くに感じる8月となります。

野草園にいらっしゃって、自然の中に身を置き木陰を歩いてみましょう。ヤマユリの香りや秋の七草の花々は、私たちにやさしいひとときをを与えてくれます。また、ミヤマカラスアゲハやカワトンボの姿が目を楽しませてくれることでしょう。



8月・9月初旬の予定

◆開園時間・休園日

- 開園時間 午前9時～午後4時30分（入園は午後4時まで）
- 休園日 毎週月曜日 8月は、7日、14日、21日、28日

◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期 間 野草園開園期間 4/1（土）～11/30（木）
- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与（1日1回まで）
《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日と祝日
8月は、6日、11日（山の日）、13日、20日、27日
- 時 間 午前・午後の2回実施
①午前10時30分～午前11時30分 ②午後1時30分～午後2時30分
- 内 容 その日の見頃の場所・見頃の植物を案内（園内、自然学習センター前集合）
- 費 用 参加費無料 《ただし入園料300円（高校生以下無料）》

◆日本植物学の父・牧野富太郎博士展

- 日 時 6月1日（木）～8月31日（木） 午前9時～午後4時
- 場 所 自然学習センター展示室
- 内 容 牧野富太郎博士に関するパネルなどを展示します。

◆昆虫ジオラマ教室

- 日 時 8月5日（土） 午前10時～午前11時
- 場 所 自然学習センター
- 内 容 保存液に漬けたカブトムシのオス・メスを専用ケースに配置
- 対 象 小学生とその保護者 先着15組
- 参加費 材料代・入園料込み 2,300円（高校生以下無料）
- 申込み まだ空きがあります。電話で本園へ TEL023-634-4120

◆木工工作コーナー

- 日 時 7月30日（日）～8月10日（木） 午後1時～午後4時
- 場 所 自然学習センター
- 内 容 木の枝などを使って自由に工作できるコーナーを設置
- 参加費 入園料300円（高校生以下無料）



木工工作

◆山の日記念 花苗プレゼント

- 月 日 8月11日（金）祝日 山の日
- 時 間 午前9時より～なくなり次第終了
- 内 容 山の日を記念し、センニチコウのポット苗をプレゼント
- 対 象 入園者 先着100人
- 参加費 入園料300円（高校生以下無料）

◆木工工作教室

- 日 時 8月11日（金・祝） 午前9時30分～正午
- 場 所 自然学習センター
- 内 容 木の枝などを使って自由に工作
- 対 象 小学生とその保護者 各日先着8組
- 参加費 入園料300円（高校生以下無料）
- 申込み まだ空きがあります。電話で本園へ TEL023-634-4120

◆樹皮編み教室

- 日 時 8月26日(土) 午前10時～正午
- 内 容 樹皮を使って壁かけタイプの一輪挿しを作製
- 講 師 多田 葉津恵 氏 ○場 所 自然学習センター
- 対 象 先着13人
- 参加費 材料代・入園料込2,700円(高校生以下2,400円)
- 申込み 8月1日から電話で本園へ TEL023-634-4120

■第4回 薬草と薬膳を楽しむ健康ウォーキング(共催事業)

- 日 時 8月27日(日) 午前10時～午後0時30分(野草園集合・解散)
- 内 容 口コミ体操などの準備体操後、園内をウォーキングしてから、特性スモージーとやくぜん弁当をいただきます
- 主 催 株式会社萬屋薬局(健康サポート薬局)
- 後 援 山形市 ○協力 山形済生病院健康増進センターめぐみ
- 定 員 45名
- 参加費 1,500円(高校生以下1,200円) 昼食代、入園料、保険料など
- 申込み先 萬屋薬局本店 TEL 023-623-1805 FAX 023-623-1835
- 申込期限 8月19日(土) 定員になり次第締め切らせていただきます

◆薬草講座

- 日 時 9月2日(土) 午前10時～正午
- 内 容 園内を散策しながら生活に役立つ薬草について学習
- 対 象 先着15人
- 場 所 野草園内
- 参加費 入園料込500円(高校生以下200円)
- 申込み 8月15日から電話で本園へ TEL023-634-4120

《「第30回野草園の魅力を探る写真コンテスト」作品募集》

- 対 象 応募区分 一般の部、小中学生の部
過去1年間に野草園で撮影された作品を募集
- 申込み 9月1日(金)～9月20日(水) 当日必着
※詳細はホームページ(<https://www.yasouen.jp>)の応募要項をご覧ください。

◆ボタニカルアート作品展

- 日 時 9月3日(日)～10月1日(日) 午前9時～午後4時30分
(※ 3日は午後1時から、10月1日は午後1時まで)
- 内 容 杉崎ボタニカルアート教室の先生と生徒の作品を展示
- 場 所 自然学習センター展示室
- 参加費 入園料300円(高校生以下無料)

◆カフェの営業・山野草販売 (自然学習センターで販売)

- カフェやまぼうし
《営業》木曜・土曜・日曜 午前10:30～午後2:30
《メニュー》カレー、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー
- 山野草販売
《営業》土曜・日曜に販売予定(平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり)

◆開花した花等の紹介

- 野草園のホームページから観察日記・Instagramをご覧ください。
園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。
- ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます。
検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。

▲野草園観察日記▲



●● 8月のアルバム ●●



「スワンヒルの庭」のアガパンサス



「スワンヒルの庭」のキバナコスモ



「吉林の庭」のスイレンと鯉



「吉林の庭」のムクゲ



「七草の庭」のオミナエシとキキョウ



「七草の庭」のクジャクチョウとフジバカマ



「中央広場」の散水シャワー



「ハーブ園」のダイヤーズカモミール他

●●● 8月に見られる主な花 ●●●



ヤマユリ(ユリ科)

山地に生える日本固有種のユリです。高さ1～1.5mの茎は直立しますが、大輪の花の重みで少し倒れてしまうものが多いようです。茎先に数個咲く花は径20cmを超え、強い芳香があります。白い花弁の内側には赤い小点がたくさんあります。その姿は豪華で華麗、まさに「ユリの女王」です。



オニユリ(ユリ科)

茎の頂に、径10～12cmの朱色の花を数個つけます。花被片は、赤橙色で暗紫色の斑点が多数あり、大きく反り返ります。長い雄しべと葯の紫色も目立ちますが、それ以上に葉の基部に付くムカゴ（零余子）が目立ち、他のものと見分ける大きな特徴になっています。花の色が鬼を思わせることが名前の由来です。



コオニユリ(ユリ科)

日当たりの良い湿り気のある山地に生える多年草です。葉は線状披針形で、葉のわきにオニユリのようにムカゴはつきません。茎の先端に黄赤色の花をつけますが、花の数はオニユリよりも少なく、形も少し小さめです。花弁は6個、上部はそり返り内側には紫黒色の小点がまばらにあります。オニユリよりも小さいことが名前の由来です。



クルマユリ(ユリ科)

本州中部以北の亜高山帯の草原に生える多年草です。葉は茎の中央部付近に6～15枚が輪生し、その上部に3～4枚がまばらにつきます。茎の先に黄赤色の花をつけ、花は下を向きます。花弁はせまい披針形で広く基部から開いてそり返ります。葉が放射状についている様子を車輪にたとえたことが名前の由来です。



オゼコウホネ(スイレン科)

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を1個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネとは雌しべの柱頭盤が赤いことで区別することができます。



スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名前は、「朝に花が開いて夜に閉じる」睡る蓮ということに由来します。



ヒツジグサ (スイレン科)

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8～15枚あり長さは萼片とほぼ同じです。黄色い雄しべの葯が目立ちます。名前は末草（ヒツジグサ）で、末の刻（午後2時）頃に関くことに由来します。夕方には花を閉じてしまいます。



カワラナデシコ (ナデシコ科)

各地の山野に自生する多年生草本です。葉は対生し、線形または披針形で、基部は茎を少し抱きます。花茎の先に咲く淡紅紫色の花は、花弁の先が細かく裂けとても優美に見えます。秋の七草のひとつに数えられていますが、7月には咲き始めます。河原に生える可憐な花の様子が名前の由来です。



キキョウ (キキョウ科)

日当たりのよい山地や野原などに生える多年草です。根は太く黄白色をしており、薬用とされます。葉は長卵形で先は尖り、縁には鋸歯があります。茎の上部に青紫色の鐘形5裂の花を開きます。秋の七草でいうアサガオはキキョウのことだといわれています。



オミナエシ (スイカズラ科)

日当たりの良い山野に生える多年草です。葉は対生し羽状に分裂し、裂片は尖ります。茎は上部で枝分かれし、そこに黄色の小さい花を多数つけます。秋の七草として有名な植物です。花が満開になるとその独特なおいで、オミナエシが咲いていることがわかります。



レンゲショウマ（キンポウゲ科）

本州の太平洋側などの深山に生える多年草で、日本固有種です。葉は大形で2～4回3出複葉、小葉は卵形です。茎の上部に淡紫色の花をまばらに下向きにつけます。花の外側は花弁状の萼片で、内側にある花弁は先が紫色をしています。花がハスに、葉がサラシナショウマに似ていることが名前の由来です。



ヒオウギ（アヤメ科）

山地の原野に生える多年草です。観賞用としても栽培されています。葉は広い剣状で扇形に並び、多少白っぽいようです。夏に茎が何度も枝分かかれし、枝の端に有柄の花をつけます。花被片は6個で水平に開き、楕円状でへら形、黄赤色で内側に濃い暗紅点が多くあります。名前の由来は、葉の並び方が桧扇に似ていることです。



フシグロセンノウ（ナデシコ科）

山地や林中に生育する多年草で、オレンジ色で径5cm程の5弁花を平らに開きます。名前の由来は、茎の節の部分が茶色っぽい紫黒色なので「節黒」、京都嵯峨仙翁寺というところが作出したので「仙翁」だそうです。萼は筒状で、先が5つに裂けます。葉は卵形で対生、葉の先は尖り、縁には毛が生えています。



ハナトラノオ（シソ科）

北米原産で大正時代に渡来しました。穂状の花序にピンク色又は白色の花を付けます。別名「角虎ノ尾（カクトラノオ）」。茎が角ばっていて花が虎の尾に似ていることから付けられた名前です。さらに、花が美しいので「花の虎の尾」の名前がついたようです。とても丈夫で、ほとんど世話が不要ありません。



ヒヨドリバナ（キク科）

山野に生える多年草で、草丈は1～2m程、葉は短柄で対生します。茎先に散房状に多数の白色の花を付けます。稀に薄い紅色を帯びる花もあります。花は筒状花だけの集まりで、雌しべの花柱が2つに分かれて長く伸びています。ヒヨドリが鳴く頃に花が咲くことが名前の由来といわれています。



ツリフネソウ (ツリフネソウ科)

水辺に群生する1年草で、莖は赤みを帯び節がふくらみます。葉の基部はくさび形で形は菱状楕円形、縁には鋸歯があります。莖先に数個の紅紫色の花を釣り下げます。距は著しく後ろに突き出て渦巻き状になっています。果実は熟すと果皮が裂けて種子を飛ばします。名の由来は、花の姿が花器の釣舟に似ることによります。



キツリフネ (ツリフネソウ科)

山地の林内や林縁など、湿った半日陰地に生育する1年草で、草丈は50cm程です。葉の付け根から花莖を出し、黄色の花を釣り下げます。淡紅色のツリフネソウの距が巻いているのに対して、本種は距が伸びています。



ルリタマアザミ (キク科)

地中海沿岸～西アジアを中心に約120種類が分布する多年草です。草丈は1m前後になります。葉は長楕円形で深く切れ込みが入り、縁にトゲがあります。葉の形は、アザミの葉に似ています。淡いブルー、もしくは白色の小さな花がまとまって咲き、直径4cm～5cmの球形(頭状花)になります。切り花やドライフラワーに利用されます。



マツムシソウ (スイカズラ科)

山地の草原に生える2年草で、根生葉はロゼット状で冬を越します。マツムシが鳴く頃に花を咲かせることが、松虫草の名前の由来です。頭花のふちの小花は5裂し、外側の裂片は大きくなります。また、中心部の小花は筒状になり同じ大きさに5裂します。



カライトソウ (バラ科)

山の草原に自生し草丈は1m程です。葉は楕円形で、縁に波形のギザギザが入ります。穂状の花は先端から根元に向かって咲き、花弁はありません。雄しべが紅紫色で長く、花の外に突出したような感じになります。雄しべを唐糸(絹)に見立てたことが名前の由来です。



ヤマハギ (マメ科)

山野に生える高さ2m程の落葉低木です。葉腋から長い花柄を伸ばし花をつけます。紅紫色の蝶形花で、翼弁の色は濃く、ほぼ竜骨弁と同じ長さで少し内側に曲がります。長い葉柄があり、広楕円形の小葉は先端は円形。花柄も長く、葉の間から花穂が突き出しているのが特徴です。秋の七草に詠まれているハギは本種であると言われています。



フジバカマ (キク科)

奈良時代に中国から渡来し、本州の関東地方以西、四国、九州などに野生する多年草です。葉は短い柄があって対生し、長楕円形～長楕円状披針形でふつう3深裂します。頭花は淡紅紫色で5個の筒状花があり、それが散房状にたくさんついています。秋の七草のひとつですが、野生のフジバカマは少なくなっています。



アケボノソウ (リンドウ科)

山野の湿り気のあるところに生える2年草で、茎は直立して枝分かれます。葉は対生し、形は披針形です。合弁花ですが、白い花は深く5裂し、ほとんど離弁花に見えます。裂片には黄緑色の蜜腺溝が2個と黒紫色の斑点が多数あります。花の色を明け方の空に見立て、斑点模様を夜明けの星々に見立てたことが「曙草」の名前の由来です。



サラシナショウマ (キンポウゲ科)

落葉樹林内や草原などに生える多年草です。茎の先に総状花序を出し、柄のある白い小さな花を密につけます。花には両生花と雄花があり、萼片は楕円形で早落します。名前は晒菜升麻で、若葉をゆでて水でさらして食べることが由来です。根茎は肥大し、乾かしたものは生薬の升麻で解毒・解熱剤などになります。



カリガネソウ (シソ科)

山地や原野に生える多年草です。近くによると臭気があります。茎の断面は四角形で、葉は鋸歯のある広卵形で対生します。葉腋から長い柄を持つ集散花序を出して、紫色の唇形花をまばらに付けます。雄しべ、花柱ともに長く、花冠から飛び出すのが特徴です。花の形が雁(かり)の姿に似ていることが名前の由来です。